

兵庫県

塵も積もれば山となる

兵庫教育大学附属中学校 二年

横山 小梅

「仮想水？」

私はこの言葉を聞いた時に様々な想像をふくらませた。別名、「バーチャルウォーター」というのだから、「仮想現実で水が飲めるのかな？」などと想像した。

実際の仮想水の意味としては輸入した食料を自国で生産した時に必要な水分量を推測したものをいうらしい。例えば、牛肉を輸入するにあたっての仮想水の定義としては、牛が食べた飼料を育てるための水、牛が飲んだ水などがあげられる。また、環境省がその食料が含んでいる水分量を計算してくれる「仮想水計算機」というものを出しており、私はそれを試してみることにした。

私はカレーライスが好きなので、主食、主菜をカレーライス、副菜をポテトサラダ、デザートにイチゴを5粒、飲み物を麦茶として計算してみた。結果は総合で約4666リットル使っていることが分かった。(ひとりあたり)わかりやすく換算してみると、一般的な浴槽に入る水の量を200リットルとすると4666リットルは約23杯分になる。私たちが食べているものにはこんなにも水が使われていることがわかった。

私は仮想水計算機を使って計算することで1人分の食事も、多大な量の水が使われていることがわかった。ここまでは私たちの身近な食卓から考えたが、これを世界規模で考えるとき、とんでもないことになることがわかる。実際に、日本では仮想水問題が大きな課題になっている。仮想水問題とは日本の食料自給率が低いことよって、大量の輸人品に含まれている水も間接的に輸入しているということになる考え方である。先ほど計算した、1人分の食事で4666リットルの量が含ま

れているということは、世界規模になることで何億倍もの量の水を輸入していることになるだろう。実際に、あるホームページによると仮想水の総輸入量は年間800億立方メートルにまで達していることが分かり水不足や水質汚染の問題を抱えている国にとつて大変な損失になっていることがわかる。このように水不足や水質汚染の問題を抱えている国を救うにはまず、日本の食料自給率を高くし、海外に頼ることがないようにすることが大切なのだと考えた。

しかし、水不足などの問題を抱えている国と、そうでない国の違いとは何なのだろうか。最近では、どんどん安全な水を使える国は増えているし、改善されていると思う。ここまで発展してきた地球に格差が生まれるのはなぜなのだろうか。例えば、アフリカ大陸のような砂漠が多い国、逆に雨量が多い国があるとしたら、必ずしも雨量が多い国が水に恵まれている訳では無い。人口密度が高かったら一人あたりの使える水が減ってしまうし、浄水にする施設がなければ水は使えない。やっぱり水を利用するにはそれくらいの難しい問題もあるし、一番大切にしてほしいのは、水を使う側一人ひとりが今の現状について知り、考えることだと思った。

私は、以上のようなことで、水について今までよりもっと知れた気がした。この作文のタイトルにあるように、ひとつひとつに含まれている水の量は少なくても、それが積もると多大な量の水になることがわかった。食料に含まれている水を私たちが抑えることは難しいけれど、日々の生活や、行いで使う水の量を減らすことができる。そのためにはこの地球のことをより深く知り、見通しを持つことが大切だと感じた。

このように、水のことに対して様々な視点から研究すること「水文学」というらしい。これを機会に水文学への一歩を踏み出せたらいいな、と思った。